



第3回 長崎大学病院 ICLSコース報告書

長崎大学病院は、救急医療教育の一環として、全研修医の日本救急医学会認定『ICLSアシスタントインストラクター』資格取得を目指しております！



平成26年6月14日(土)開催

共催:長崎シミュレーション教育研究会
長崎大学病院 医療教育開発センター
協力:日本光電九州株式会社

コースの目的

本コースは、初期研修医の救命医療における知識と技術の向上を目的として開催した。

ICLSとは

日本救急医学会が主催、または「コース認定」をして行う、医療従事者のための蘇生トレーニングコースです。心臓血管系の緊急病態のうち、特に「突然の心停止に対する最初の10分間の対応と適切なチーム蘇生」を習得することを目標とした、実技実習を中心としたコースです。受講者は少人数のグループに分かれて実際に即したシミュレーション実習を繰り返し、約1日をかけて蘇生のために必要な技術や蘇生現場でのチーム医療を身につけます。身につける行動の目標は以下の通りです。

- 蘇生を始める必要性を判断でき、行動に移すことができる
- BLS(一次救命処置)に習熟する
- AED(自動体外式除細動器)を安全に操作できる
- 心停止時の4つの心電図波形を診断できる
- 除細動の適応を判断できる
- 電気ショックを安全かつ確実にこなうことができる
- 状況と自分の技能に応じた気道管理法を選択し実施できる
- 気道が確実に確保できているかどうかを判断できる
- 状況に応じて適切な薬剤を適切な方法で投与できる
- 治療可能な心停止の原因を知り、原因検索を行動にできる

実施結果

受講生12名が当コースを修了し、ICLSアシスタントインストラクターの資格を得た。

また、スタッフ(コースディレクター2名、インストラクター3名、アシスタントインストラクター4名)計9名で指導を行い、2ブースを問題なく運営した。

※スタッフ詳細はP.4



◆実施内容◆

開催日時	平成25年6月14日(日) 8:00～16:05		
受講者数	12名		
対象	研修医		
場所	長崎大学病院 シミュレーションセンター、リハビリ室、第四会議室		
スケジュール			
		グループ(1)	グループ(2)
8:00～8:20	0:20	受付	
8:20～8:30	0:10	オリエンテーション	
8:30～9:05	0:35	BLS+AED	
9:05～9:15	0:10	休憩・移動	
9:15～10:15	1:00	気道管理(A)	モニター(B)
10:15～10:25	0:10	休憩・移動	
10:25～11:25	1:00	モニター(B)	気道管理(A)
11:25～12:15	0:50	昼食	
12:15～12:20	0:05	BLS・ALSデモンストレーション	
12:20～13:30	1:10	チーム蘇生(B)	チーム蘇生(A)
		VF/VT	VF/VT
13:30～13:40	0:10	休憩	
13:40～14:25	0:45	non VF/VT (A)	non VF/VT (B)
14:25～14:40	0:15	休憩・移動	
14:40～15:40	1:00	メガコード(A)	メガコード(B)
15:50～16:05	0:15	終了式・修了証授与式	

講習会の様子

～午前中～

8:20～8:30 オリエンテーション



コースディレクターの長谷敦子先生が開会の挨拶をされ、インストラクター、アシスタントインストラクターも自己紹介を含めてそれぞれ一言述べました。その後、長谷先生から、講習会の流れと注意事項を参加者に伝え、実習ブースへ移動。

8:30～9:05 BLSとAEDのスキルセッション



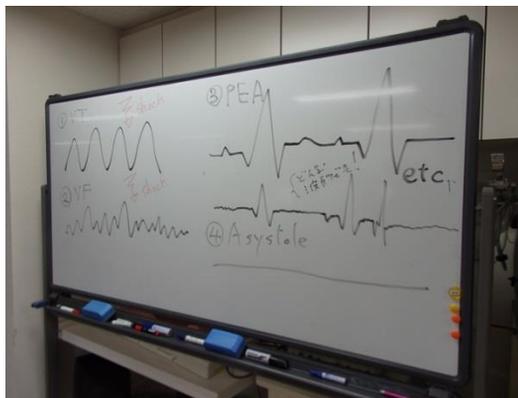
さっそくセッション開始です。BLSは全員受講済みなので、基本事項をおさらいし、実習に移りました。



9:15～11:25

BLSが終わったら2グループに分かれ、気道管理、モニター・電気ショックのスキルセッションを行いました。

<モニター・電気ショック>



柴田先生が、除細動が必要かどうかの診断に必要な4つの波形を説明しました。

続いて、田下看護師が除細動器の使い方、電気ショックのやり方を説明しました。その後、全員が除細動器を操作したり電気ショックをかけたりし、使い方を学びました。



ショックします！

<気道管理>



山野先生・崎村先生は、喉頭鏡ブレード・ハンドル、気管チューブ、スタイレット、バイトブロックなど、気管挿管で使用する器具を、1つ1つ説明しました。



気道管理の要点は、気道確保、換気、酸素投与の3つ。
換気はバッグバルブマスクを用いて行います。
胃内に空気が入らないように注意しながら行っていました。

12:15～12:20 BLS・ALSデモンストレーション



柴田先生からチーム蘇生に必要な4つの心停止の波形の復習がありました。



お昼からは実際あるようなシナリオを元に行動してもらいますので、気合を入れて頑張ってください。

インストラクターの先生方がチーム蘇生のデモンストレーションを行いました。



12:25～15:40 チーム蘇生のためのシナリオセッション



ローテート救命救急センターを回っていない受講生には、先輩の研修医がアドバイスをしたりしながら1つのチームとして蘇生を行っていました。



実際にシナリオを行ってみて、良かった部分、良くなかった部分を事細かにフィードバックします。的確にフィードバックしてくれる先生方に真剣な面持ちの受講生です。





エネルギー
150Jにセット
して下さい。

ショックします！
離れて下さい！



大丈夫です！

胸骨圧迫疲れ
てないです
か？



時間どのくら
い経った？

エピネフリン
1mg入れます



2分経過

記録も大事な役割です。

15:50～16:05 修了式

いよいよ講習も、終了です。
アンケートに記入して頂き、インストラクターの皆さまから今日の感想を頂きました。



山野先生からも一言いただきました。

今日なった事をこれからも生かして、次へ繋げてほしい。頑張ってください。

と励ましの言葉を頂きました。



お疲れ様でした。
これからも頑張ってください。

そして、コースディレクターの長谷先生から、修了証と受講カードが、受講生1人1人に手渡されました。
講習を終えた先生方は、朝の緊張してた面持ちに比べると自信がみなぎっているように見えました。



お疲れさまでした！

★アンケート★ 受講者からの声

あいまいだった部分をフィードバックできちゃんと解説してもらいクリアになった。

今まで言われた通りの事しかできななかったが、これからは積極的にかかわっていける自信が付いた。

CPAに遭遇したら、出来る限りの行動をとり、声を上げ実行したい。

自ら周囲を見て主体的に動こうという意欲が高まった。

フィードバックをもらい自分に判断力がないことに気づいたが、それをかばえる程の修得ができた。

迅速な判断と行動力が求められる現場で、何が必要なのかわることができた。急変時に何をまずするか理解できた。

楽しく、かつ充実した講習を受けることができ、とても有意義な一日になりました。

◆アンケート◆ スタッフの声

1) 受講者の態度・意欲はどうだったか？

- ・十分でした。
- ・全体的にまじめで意欲があった。
- ・行動の1つ1つに積極性を感じた。
- ・初めはやや緊張気味だったが、後半のメガコードでは積極的に参加していた。
- ・周りとのコミュニケーションを取りつつ、うまく立ち振る舞っていた。
- ・楽しく学んでいた。

2) 予備知識(予習含む)はどうだったか？

- ・学年による差はあるが、かなり良い。
- ・1年次の先生は、まだ不十分な受講生もいた。
- ・実際に臨床を経験しているのので、知識はあったと思うが、所々かたよっている所があった。
- ・よく勉強していた。知識豊富だった。アドバイスの内容も理解していた。
- ・除細動器の取り扱い以外は良かった。
- ・経験している科によって、経験値に差があるようだった。
- ・協力し、差を補っていた。

3) ディレクター、インストラクター、アシスタント、チューターの指導はどうだったか？

- ・知識もあり、やりやすかった。
- ・ブース長をはじめ、各々の役割をこなしスムーズだった。
- ・うまく進行していて、見習うべき点が多くあった。
- ・アドバイスを入れ受講生が楽しく意欲的に取り組めるよう工夫していた。
- ・同級生の受講生に教えにくい面があったが、うまくやっていた。
- ・ローテートした受講生には教えにくそうだった。
- ・積極的で意欲的だった。

4) 今後について、ひとこと

- ・疲れたが、参加して良かった。楽しかった。
- ・また参加したいので、定期的にしてほしい。
- ・看護師も合同でやってほしい。

●改善点●

- ・新しく導入したハートシムの機能を十分に理解しておいた方が良かった。操作方法に少し時間を取った方がよかった。
- ・エアウェイのブースで、テーブルを用意しておいた方が良かった。
- ・気道挿管の時、喉頭モデルがあった方が、教えやすいので次回準備。
- ・フィードバックの時間が足りなかった。

準備する資機材リスト(2ブース分)

資機材名	必要数	備考
ハートシム、操作用PC	3	予備の1台を含む
レサシアン	4	1ブースに2
バックバルブマスク	2	
AEDトレーナー	4	複数機種 (うち1台、本物のAEDを日本光電から借用)
気道管理トレーナー	2	
モニター付き除細動器	2	単相性と二相性を1台ずつ (1台は日本光電から借用)
気道管理ボックス	2	各ブースに1箱ずつ
内訳)		
注射器10ml		
バイトブロック		
吸引チューブ		
エアウエイ		
経鼻エアウエイ		
聴診器		
ポケットマスク		
喉頭鏡(4. 0)		
喉頭鏡柄		
チューブ固定具		
酸素マスク		
酸素カニューラ		
挿管チューブ		
スタイレット		
CO2チェッカー		
テープ		
点滴	2	各ブースに1つずつ
点滴スタンド	2	各ブースに1つずつ
ワゴン	2	
骨髄針	1~2	日本光電から借用
聴診器	2	
アルコール綿	多めに	
タオル	4	
ホワイトボード	2	
ホワイトボードマーカー4色	8	
ストップウォッチ	2	
メトロノーム	2	
延長コード	4	

長崎大学病院
医療教育開発センター

〒852-8501

長崎市坂本1丁目7番1号

電話 (095) 819-7881

FAX (095) 819-7882